

令和6年度 学 校 評 価 報 告

草加市立稲荷小学校

(令和7年2月20日作成)

1 学校教育目標 自ら学び (自分の考えをもち、よりよく判断し、行動できる子) 心豊かに (互いのよさを認め合い、高め合える子) たくましく (心と体が健康で、笑顔と希望にあふれる子)	
2 重点目標・努力目標 最重点目標 ○ 児童の「学力向上」 ○ 教職員の「働き方改革」の推進 重点目標 「子供と向き合う学校づくり」 ・ 学習指導の充実 ・ 生徒指導の充実 ・ 豊かな心と体力づくりの充実 ・ 安心・安全な教育環境の整備・充実 ・ 家庭・地域に根差した教育の充実 ・ 学年・学級経営の充実	3 前年度の成果と課題 成果 ○職員会議の時間短縮や削減、行事の精選等「働き方改革」を進めたことで、教材研究の時間を確保し、学力向上を図ることができた。 課題 ●令和3・4年度の草加市教育委員会研究委嘱や今年度の校内研修を土台としながら、令和7・8年度の草加市教育委員会研究委嘱を見据え、令和6年度はその準備期間となるような校内研修計画を立案し実施していく。

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・ 学校経営目標、方針 ・ 校務分掌組織 ・ 適所への適材配置 ・ 職員会議等の運営 ・ 予算の執行・決算、監査等	B	○適切な役割分担のもと校務分掌組織を編制し、教職員の学校運営参画意識を高め、連携しながら教育課題に取り組むことができた。 ●企画委員会について、情報共有だけでなく方策策定としての機能を高める。
	②研究・研修	・ 研究組織、計画、実施 ・ 校内研修の推進 ・ 授業改善への取組 ・ 校外研修会への参加 ・ 人材育成	B	○「自己肯定感・自己有用感・他者理解」に係る基礎研修を実施し理解を深めることができた。 ○個人のテーマに基づき、注力したい教科に特化して研究を深めることができた。 ●ライフステージに応じた研修の推進を図る。
	③保健管理・安全管理	・ 保健計画、安全計画 ・ 環境衛生の管理 ・ 健康観察、安全点検 ・ 緊急事態発生時の対応 ・ 危機管理マニュアルの作成・活用	A	○研修を踏まえて、危機管理マニュアル見直しや、引き取り名簿の保管場所変更を行った。 ○熱中症対策として、校庭使用可否のアナウンスや教職員への啓発方法の改善を行った。
	④情報管理・施設設備管理	・ 個人情報の管理、保護 ・ 施設設備の管理と有効利用	A	○個別対応に活用する場として、東倉庫を整理して空きスペースを生み出した。 ○安全点検の結果に基づき施設設備の修理を適切に行った。

⑤地域との連携 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> 学校情報の発信 学校公開の実施 学校運営協議会の推進 地域、校種間連携 PTA活動の活性化 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校ホームページを毎日更新した。 毎学期の授業参観及び11月の学校公開を実施した。また、近隣の幼稚園・保育園の年長園児保護者へ授業参観や学校公開の案内を作成・配布した。 町会主催「避難所開設訓練」や、「幼保招待交流給食」、ボランティアを招いての「お礼の昼食会」等実施した。
⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> 目指す子ども像の共有 15年間を通じたカリキュラムの編成 一貫教育推進のための組織づくり 	B	<ul style="list-style-type: none"> 幼保小の円滑な接続を進めるため、8月に幼保連絡協議会を実施した。 全ての学年において、発達段階に応じて幼稚園・保育園または中学校と交流会を実施した。 松江中学校区幼保小中一貫教育研究を継承し、「草加っ子の学びを支える授業の5か条」を踏まえた授業改善を行った。

(様式1・小学校用②)

草加市立稲荷小学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	A	○教育効果やねらいに照らして行事を精選し、授業時数確保との両立を図ることができた。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> 鉛筆の持ち方や話を聞く姿勢等、共通指導事項を明確にした。 食育や歯みがき指導、音楽教育で外部人材を活用した。 ●タブレット端末の効果的な活用を一層進める。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書に沿った場面絵・指導案の作成、整理を実施した。 ●道徳的実践力の向上を図るため各教科等と関連させた指導を充実させる。
	④外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導方法の工夫と改善 評価、評定の工夫 各教科、道徳教育との関連 中学校との連携 	A	○英語専科による指導により、児童は意欲的に活動し、外国語活動に慣れ親しむことができた。
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 児童会活動 	A	○児童の自発的、自治的な活動を重視し、様々な集団活動を計画・実施することができた。

⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・指導内容の充実 ・指導方法の工夫と改善 ・評価の工夫 ・地域の人材・物的資源の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科等や学校行事と関連させ指導計画を立案することができた。 ●探究的な学びを深める総合的な学習の時間の展開について引き続き検討する。
⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的な生徒指導 ・問題行動への対処 ・教育相談、児童理解 ・いじめ防止対策 ・保護者、地域、諸機関との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○管理職を中心に組織的な生徒指導対応を進めることができた。 ●いじめ未然防止に向けて、発達支持的な生徒指導を一層充実させる。
⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> ・計画の立案 ・指導内容の充実 ・中学校との連携 ・啓発的経験の充実 ・家庭、地域との連携強化 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○特別活動（3）や総合的な学習の時間を用いて、取り組むことができた。
⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画、支援計画 ・指導方法の工夫と改善 ・通常学級との交流 ・諸機関との連携 ・校内支援体制の整備 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研修会や巡回相談を複数回実施することで、個に応じた支援の工夫改善を図ることができた。 ○保護者との連携を密にし、指導方法の工夫・改善に生かした。 ●関係機関との連携を一層密にしている。
⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画、支援計画の作成 ・図書館補助員の活用 ・諸機関との連携 ・図書館の整備 ・図書館利用の工夫 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○読み聞かせボランティアによる読書タイムでの読み聞かせを実施した。 ○読書ビンゴや本のリクエスト等、様々な方策で図書館利用の促進を図った。 ○図書館の貸し出し冊数を増やすことで、図書館利用率の向上を図った。
⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> ・教育計画の作成 ・校内研修の充実 ・ICT機器の積極的な活用 ・情報モラル教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○情報教育主任主催のICT活用研修を複数回行い、活用充実を図った。 ●令和7年度からのタブレット端末の家庭での活用に向けた整備を進める。
⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画の策定 ・各教科との関連 ・人権感覚の育成 ・校内研修の充実 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○同和教育を主題とした教職員研修を実施した。 ●人権感覚育成プログラムの効果的な活用を引き続き推進する。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色ある学校づくり	①児童の学力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修の充実・活性化 ・各学力・学習状況調査の検証と改善 ・松江中学校区幼保小中一貫教育研究の継承 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員が主体的に研究する研修を企画・実践したことで、タブレット端末の活用促進や「いなりスタンダード」の定着を図ることができた。 ●各学力・学習状況調査の分析や分析結果を踏まえた授業改善の方策について引き続き検討していく。
	②教職員の「働き方改革」の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・「明日が楽しみになる職場づくり」の推進 ・「稲荷小 働き方改革グランドデザイン」の推進 ・「業務改善提案制度」の実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員が「働き方改革」を自分事として捉えることができるよう、研修や勤務時間モニタリングのフィードバックを行った。 ○行事の精選による授業時数の削減や、成績処理の時間確保等、教職員の意見を生かした業務改善の具体的な取組が行われ、在校時間が削減された。 ○メンタルにおける病休取得者0であった。 ●全教職員の「働きがい」や「働きやすさ」向上のための取組を引き続き実施
	③家庭・地域との連携・協働	<ul style="list-style-type: none"> ・「よくわかる！稲荷小学校」の作成と配布 ・「いなりっ子・共育プラン」の作成と配布 ・学校ホームページの毎日更新 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ホームページの毎日更新を実施し、学校情報の発信に関する保護者アンケートでは92%の肯定的評価を得た。 ○PTA組織の改革について、協議を重ね、本部役員とともに改編を行った。

5 総合評価 (学校関係者評価を含む)

- ・学校ホームページの毎日更新や、学校の考えが伝わる学校だよりの作成、連絡メール「すぐえる」を活用したこまめな情報発信を実施したことにより、学校評価「学校は、ホームページ、学校だより、メール等で積極的に情報公開(発信)をしている。」の項目で、保護者の92%が当てはまると答えている。
- ・教職員が「働き方改革」を自分事として捉えることができるよう、教職員研修(2回)の実施や勤務時間モニタリングのフィードバック、業務改善提案事項に係る協議等を行ったことで、「働き方改革」を進めることができた。
- ・学校関係者評価では、今年度も教員の児童に寄り添った丁寧な指導により、児童は意欲的に授業に取り組んでおり、学校は工夫を凝らし様々な活動を実践しているとの評価をいただいた。

6 次年度の改善策

- ・令和7・8年度の草加市教育委員会研究委嘱の初年度を迎えるにあたり、早い時期に校内研修計画を立案し、研修を軌道に乗せる必要がある。
- ・タブレット端末の持ち帰りについて、校内規程を整備し、家庭の協力を得ながら取組を進めていく。
- ・地域人材の活用や地域の方との交流など、各教科等での効果的な外部人材の活用を推進する。